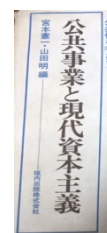


公共事業と現代資本主義



写真は忘れられない一冊である。宮本憲一先生執筆の「はじめに」から一本書は、このように、従来の社会資本充実政策を解明し、批判することを通じて、これまでの「公共性」を批判し、それにかわる「共同性」あるいは真の「公共性」を明らかにし、それにもとづく、こんごの「社会的共同資本」のあり方をあきらかにすることを目的として構成されたものである。……この講座を企画された山本栄一、似田貝香門の両氏が、宮本に共同研究の相談にこられたのは、1976年のことである。以後、遠藤晃氏を事務局長にして研究会をかさねたが、事務局長以下メンバーが多忙なこともあり、なかなか研究はすすまなかった。しかし、大阪空港裁判など重要な事件に間に合わせるためには、研究の成果をまとめる必要が大きくなった。そこで、急拠、事務局長に山田がなり、研究会を再編成して、原稿を書いてもらった。この結果、1979年夏、宮本と山田の原稿が提出されたのをはじめとして、ほぼ80年夏までに大体の原稿がでそろった。その後、やっとおくれていた原稿も到着し、81年に全体の編集がおわったので、もう一度、原稿の修正をした。早くから提出された原稿の公表がおくれ、若い研究者にはずいぶん分めいわくがかかった。日本の共同研究は、相互の義務感がとぼしいので、完成までに長年月を要する欠陥がある。

本書の目次を示しておこう。

I 社会資本論の今日的意義

- 1 社会資本論の今日的意義（宮本憲一）
- 2 社会資本をめぐる内外の諸論争（加藤一郎・寺西俊一）
- 3 公共事業と大都市財政の危機（山田明）
- 4 社会資本と資金調達（保母武彦）

II 社会資本の実態

- 5 農村社会資本の現状と課題（深井純一）
- 6 トヨタ自工における在庫削減と道路（野原光）
- 7 水資源・水環境の公共的管理（仁連孝昭）
- 8 現代廃棄物問題（平野隆之）

終章 9 社会資本充実政策の危機と今後の展望（宮本憲一・山田明）

こうした経過のなかで、本書は「宮本憲一・山田明編」として刊行された。宮本先生との共編は、これが最初で最後であろう。当時、オーバードクターから名古屋市立女子短大に就職したばかりであった。こんな「若造」が編者なんて、「へんじゃ」という声も聞こえてきた。でも先のような経過と宮本先生の「英断」により、忘れられない一冊となった。原稿や共同研究、本の編集など、多くのことを学ぶことができた。

(2018年10月27日)